

2024 日本学校心理学会  
第72回研修会

アセスメントから心理教育的援助サービスへ  
～師匠アラン・カウフマン、師匠のメンター  
デイビッド・ウェクスラーから引き継いだもの～

東京成徳大学 石隈利紀

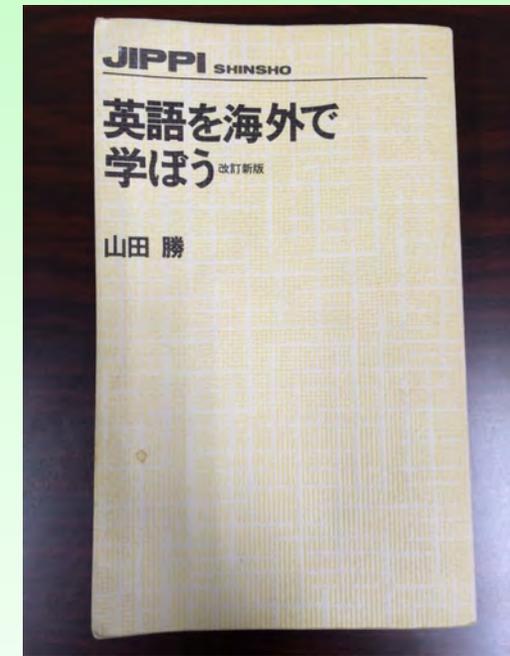
HP 「石隈利紀」

X (ツイッター) SpTsukuba

# 自己紹介

- ・20代：弁護士を目指して法学関係大学受験の大失敗と挫折  
大学時代の長いモラトリアム **「家庭教師」という天職**  
1時間学習支援+1時間カウンセリング  
(恋愛・進路相談；遊ぶ)
- スクールサイコロジストの原点
  - ・「先生」(教員)になりたかった。(教育職への敬意)
- ・会社員(営業) + 家庭教師
- ・塾を生涯の仕事とする。そのため(1年予定)アメリカ留学。

そうだ！  
アメリカに行こう！！



ABC: Alabama  
Language  
Institute

Ph. D:  
University  
of Alabama

# モンテバロー大学



アラバマ州ギャズデンの語学学校・短期大学から  
モンテバロー大学文理学部心理学科に編入

# カウフマン博士夫妻



**Alan S. Kaufman**



**Nadeen L. Kaufman**

# 本日の流れ

- 学校心理学とアセスメント
  - アルフレッド・ビネー先生：知的障害、社会経済的状況
  - ディビッド・ウェクスラー先生：復員兵、LD
  - アラン・カウフマン先生：LD、マイノリティ
  - カウフマン先生との出会い
- 
- アセスメントから心理教育的援助サービスへ
  - 今後の課題ーパートナーシップとしてのアセスメントと援助

# 0 『生徒指導提要』（文部科学省, 2022）

「例えば、知的発達の水準や認知特性をみるにはWISC-IVやWISC-V, 認知能力と習熟度の差をみるにはKABC-II, 適応行動の発達水準を幅広く捉えるにはVineland-IIが活用されます」

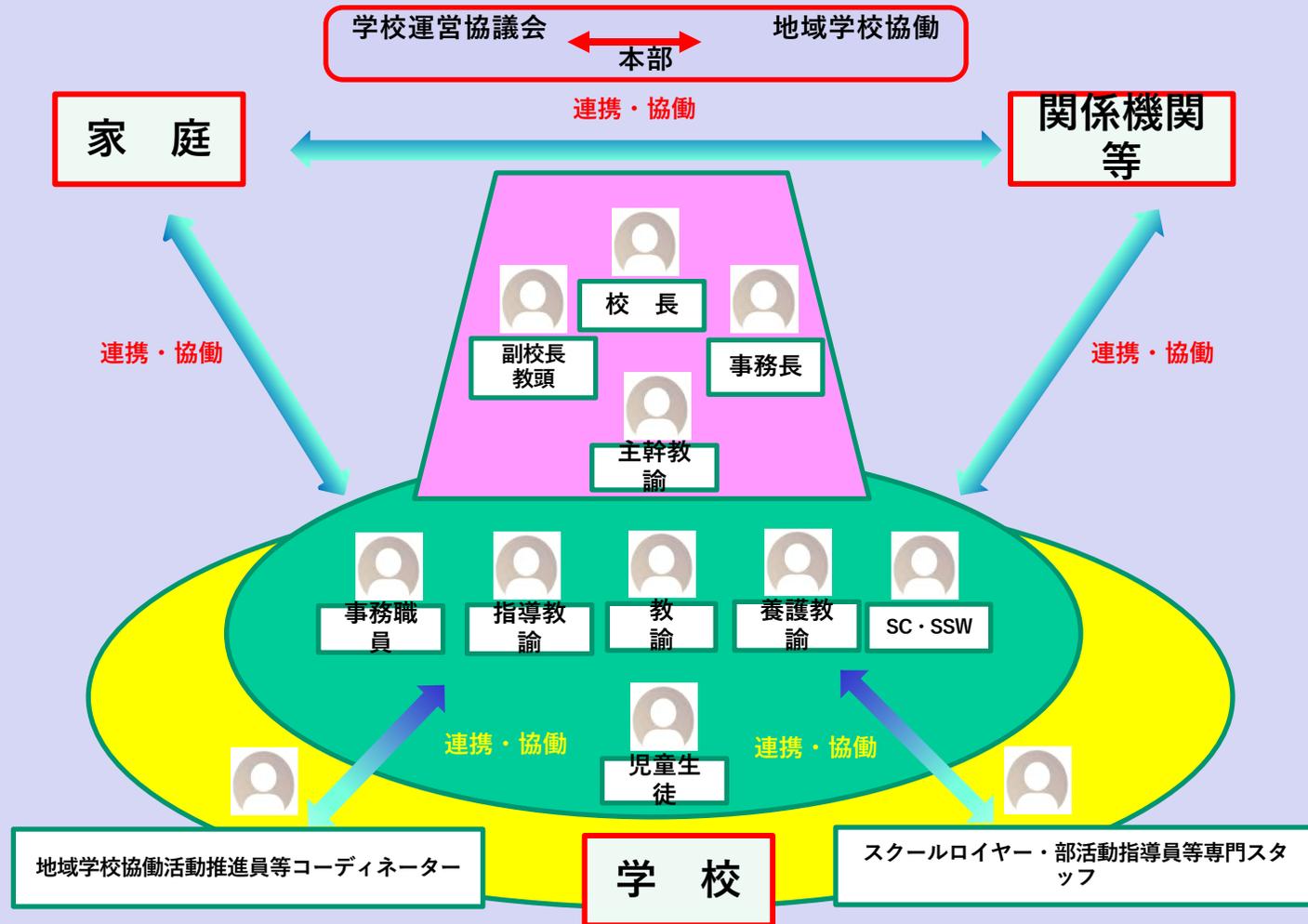
★一人ひとりの子どもの個性の  
アセスメントと発達支援を強調

## 生徒指導提要

令和4年12月

文部科学省

# 地域社会



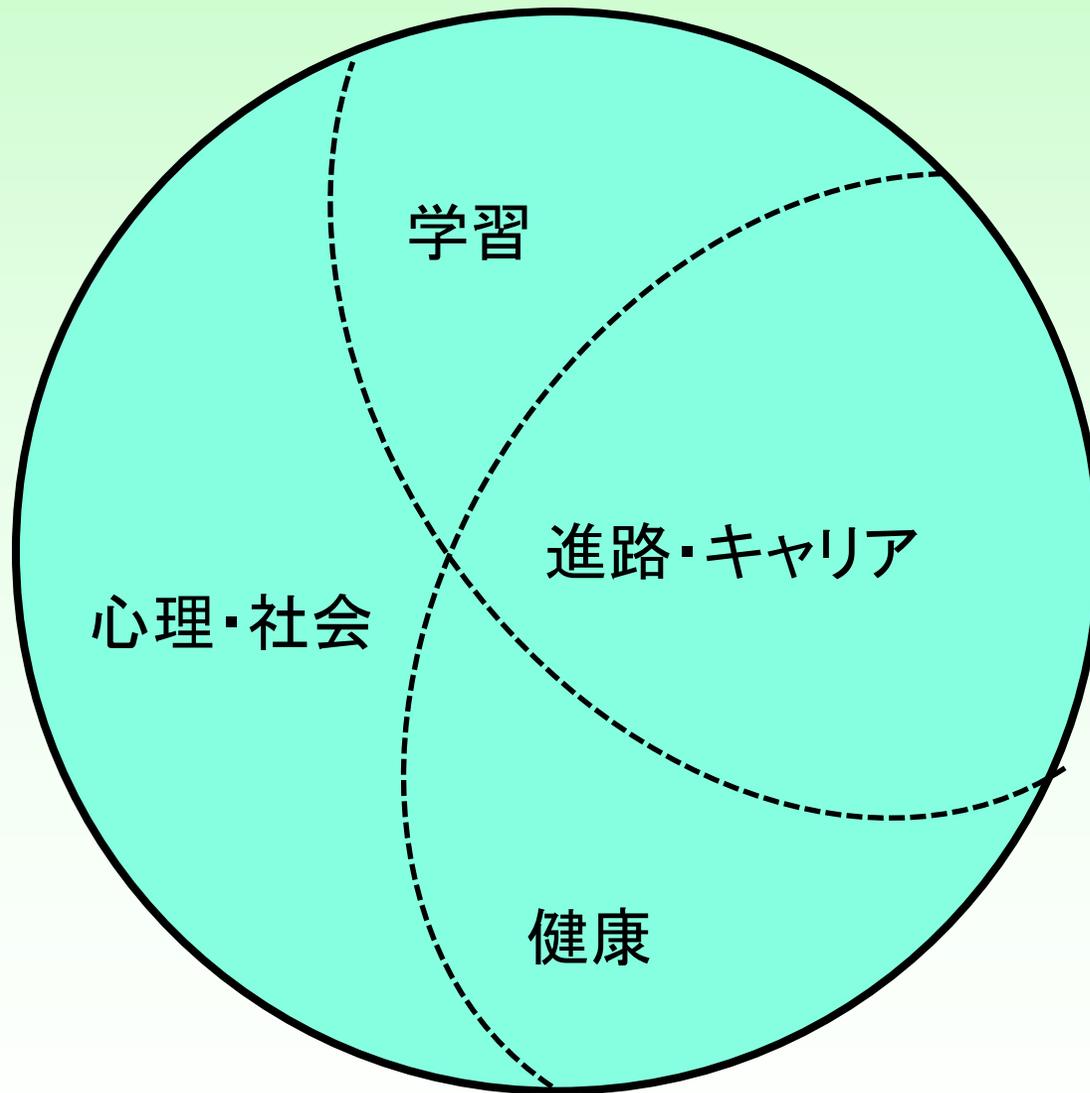
# 1-1 学校心理学とは

心理教育的援助サービスの理論と実践：

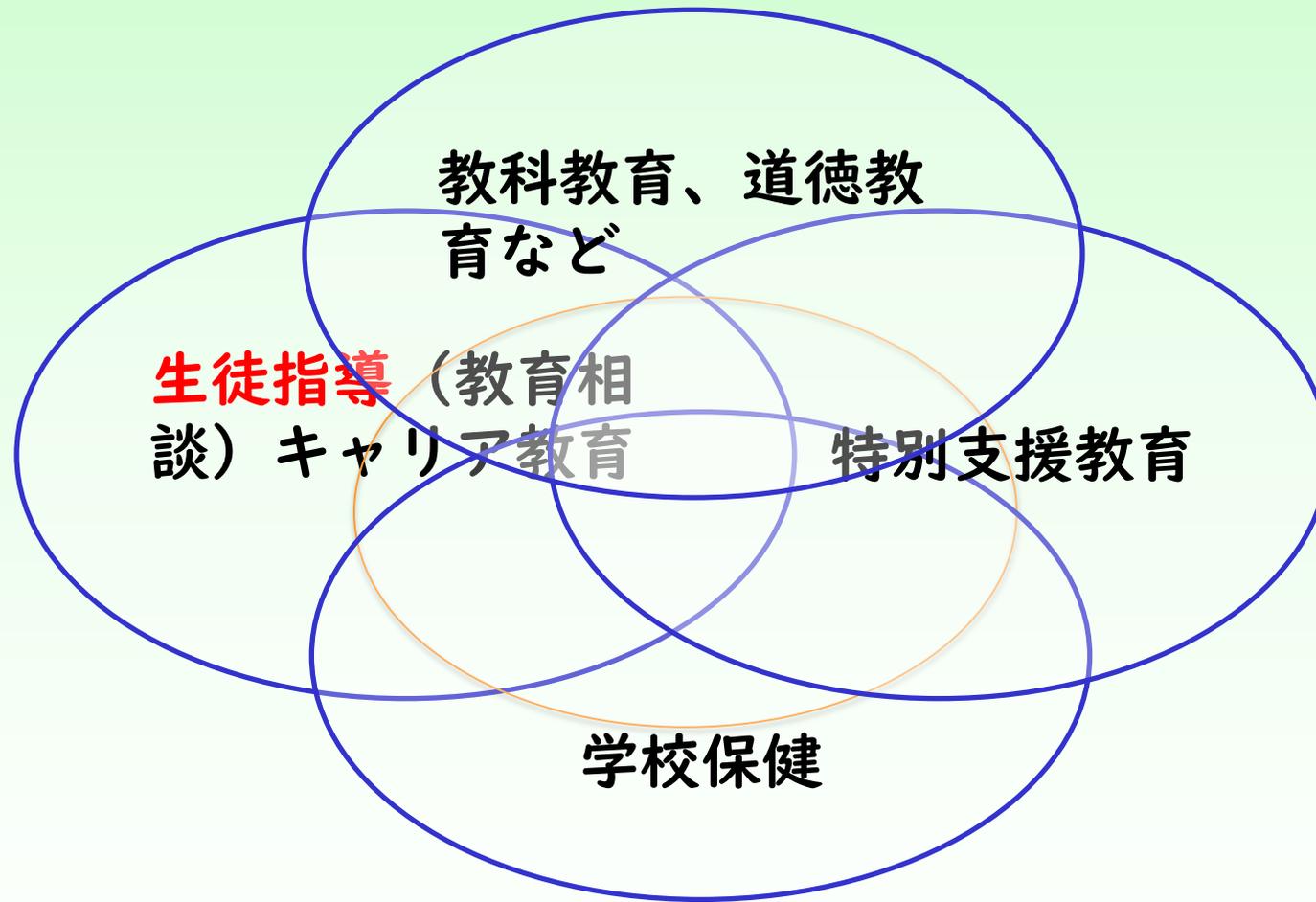
一人ひとりの子どもの学習面、心理・社会面、進路・キャリア面、健康面など「学校生活」における問題状況・危機状況での援助と、子どもの成長を促進する教育活動

★多様な子どもの理解と援助

★ヒューマン・サービスからパートナーシップへ

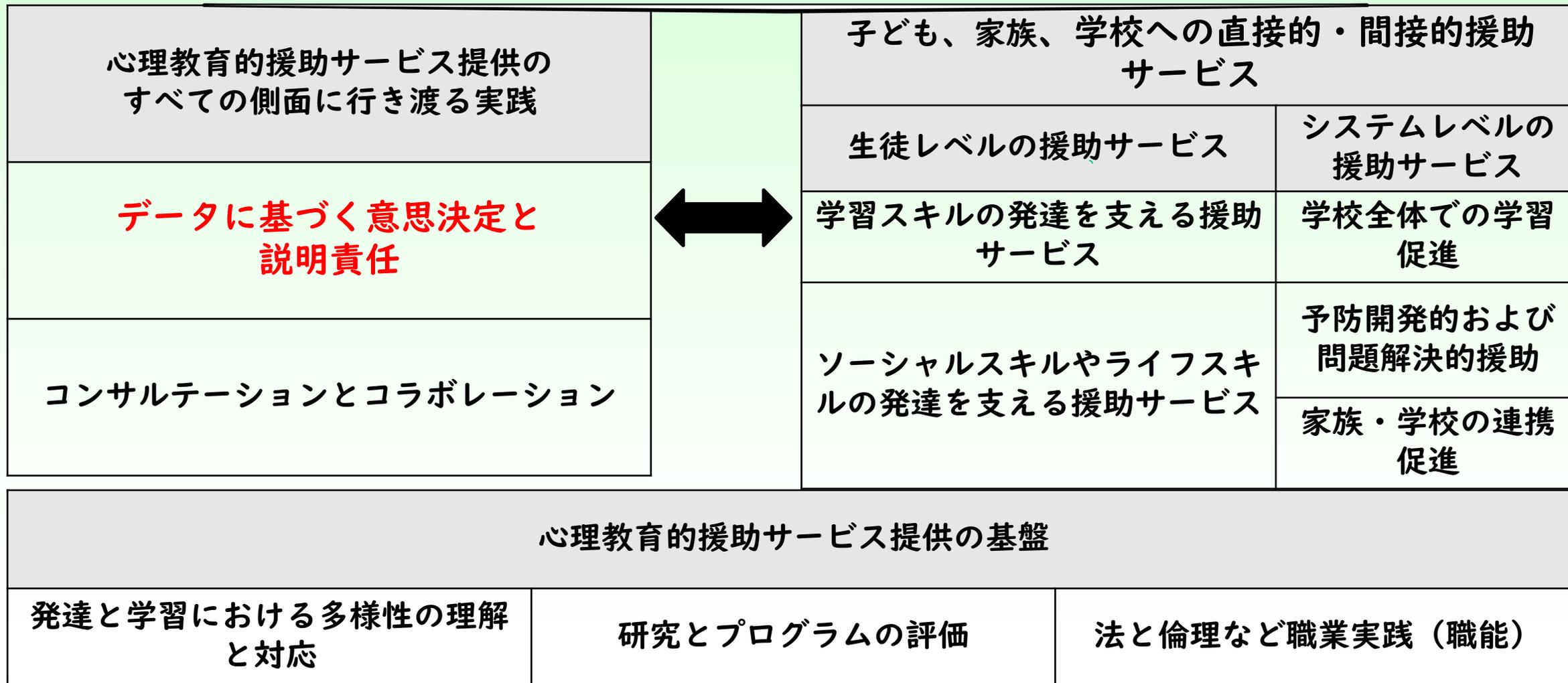


1-2 トータルな存在である子ども：4つの側面  
(石隈・家近, 2021)



### 1-3 学校心理学の領域

# 1-4 スクールサイコロジストによる包括的・総合的援助サービスモデル (NASP, 1994, 2010)



## 2-1 心理的アセスメントとは

- 心理職が、子どもの問題状況についての情報を収集し意味づけをする（分かる）ことを通して、心理支援（行動する）に関する意思決定の資料を作成するプロセス

（エビデンスに基づく実践＋反省的実践）

- 子どもが、アセスメントのプロセスと結果のフィードバックにより自己理解（分かる）を促進するプロセス

（子どもとの関係構築：パートナーシップ）

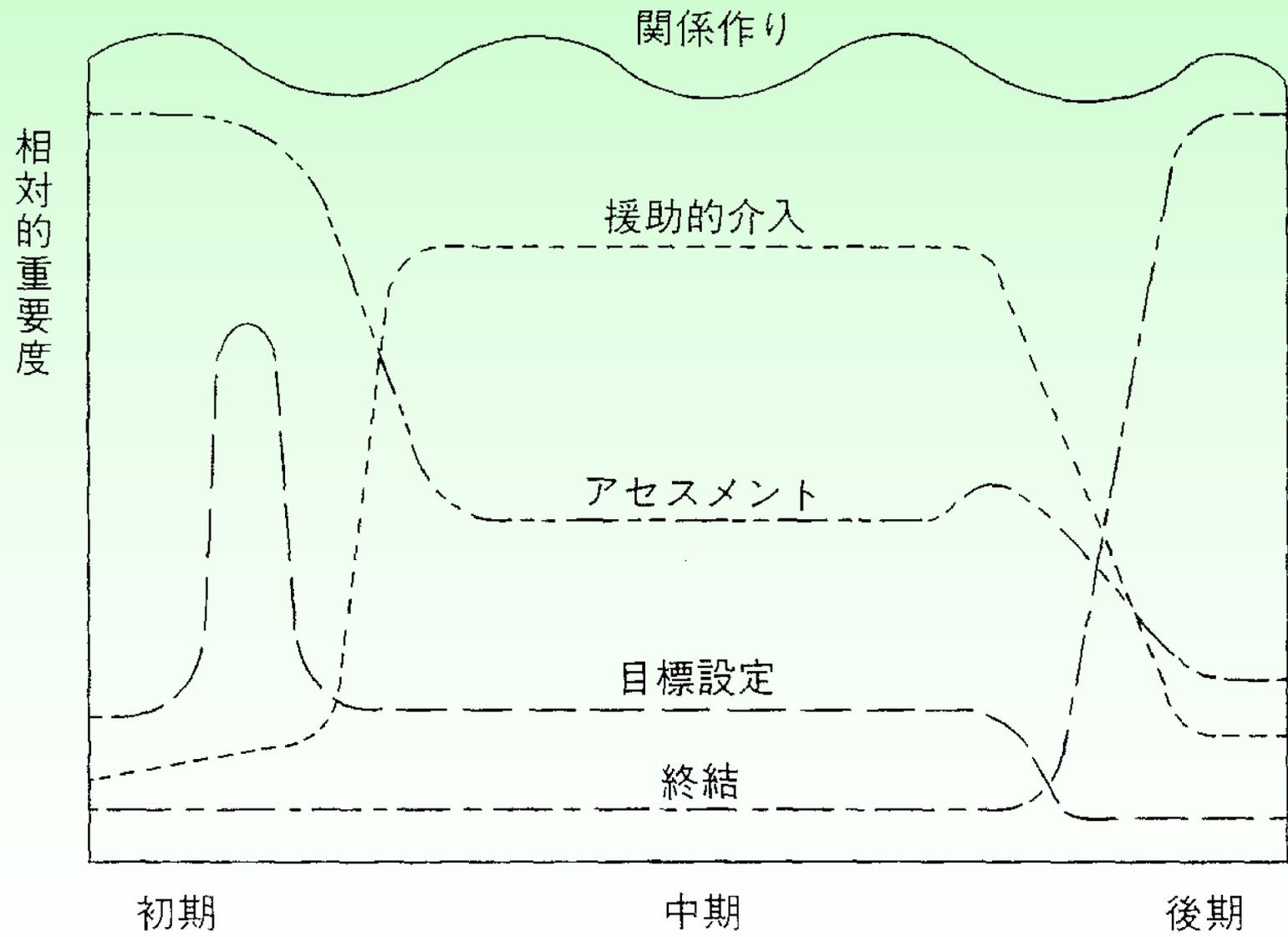


図 8 - 3 援助サービスにおける同時的プロセスモデル

(Walter & Lenox, 1994より)

## 2-2 知能アセスメントの歴史

(1) 1908 ビネー式：就学相談における**知的障害見発見**→

1916スタンフォード・ビネー：比率IQ <就学相談>

知能：年齢とともに発達する一般知能

(2) 1949 ウェクスラー式：偏差IQ，知能の程度や偏りをプロ  
フィールにより測定 **復員兵**の診断、**LD理解** <教育相談>

知能：パーソナリティーの一側面：種々の機能からなる一般知能

(3) 1983 カウフマン式 **LD理解** <教育相談>

知能：情報を処理して問題解決する能力

習得度：知能を活用して獲得した知識や技能

# 3-1 Alfred Binet (1857-1911)

法律学校→心理学で博士号

シャルコーのもとで催眠の研究

ソルボンヌ大学心理学実験室：

暗示、感覚、目撃証言

参照：有斐閣現代心理学辞典 写真Wikipedia

Binet & Simon (1916)



知能は親の貧富の状況を考慮して測定すべきである

フランスの全員入学の学校制度の開始にともなって、授業について行けない子どもが出てきた。

★知能検査をする意義と限界 社会経済的状況への配慮

## 3-2 ビネー式

1905, 1908 ビネー式：就学相談における知的障害児の発見

★知能：年齢とともに発達する一般知能

ビネー (1908) は mental age (精神年齢) という用語が過大解釈されることを危惧し、mental level (精神レベル) を用いた。

・1912 ドイツのウィリアム・シュテルンが「精神年齢」「知能指数」という指標を提唱

→1916スタンフォード・ビネー：比率IQ

## 4-1 David Wechsler(1896-1981)

- ・ルーマニア生まれ。米国のサイコロジスト。
- ・1918-1925（第一次世界大戦の直後）陸軍で勤務ロンドン大学に派遣、スピアマンとピアソンのもとで博士号。

参照：有斐閣現代心理学辞典

- ・1932-1967 ベルビューー病院（精神科）  
チーフサイコロジスト：復員兵の支援
  - ・1939 ウェクスラー・ベルビューー
- ★第二次世界大戦 1939-1945



『日本版WAIS-R成人知能検査 パンフレット』より

- ・ 日本文化科学社の許可を得て転載

## 4-2 David Wechsler(1896-1981)

★知能はパーソナリティーの一側面

下位検査のプロフィール、知能の要因に関心

IQテストはパーソナリティー要因、検査時の行動や気分に影響を受ける

★包括的アセスメント、検査中の観察が重要

(検査解釈の可能性と課題)

言語性検査と流動性検査は2種類の知能ではなく、

g (一般知能)知能の異なる方法、表現

★臨床心理学における知能アセスメント

## 4-3 ウェクスラー式検査の誕生

言語性検査 ビネー検査、Army Alfa

動作性検査 Army Beta (英語がよく話せない)

言語は知能の一部

★大人の受ける検査：表面的妥当性、偏差値IQ

★言語的検査が低くても動作性検査が高い（その逆）がいることを臨床家としての勘で信じていた。

Kaufman, A. S. (2009) IQ Testing 101

★社会は動作性検査に批判的→ウェクスラー自身が標準化

→サイコロジカル・コーパレーション→ピアソン

## 4-4 ウェクスラー検査の誕生（続）

自分の資金と時間で標準化

・ Wechsler-Bellevue ニューヨークのブルックリンで。

サンプリング 子どもから大人まで2000名

社会経済的地位：教育と職業。

★農業従事者(farmers)の代わりに理髪師

●なぜビネー式があるのに、ウェクスラー式？

パーソナリティの一側面として、多面的に知能を測定する実践的な臨床ツールがなかった。復員兵理解への思い。

## 4-5 ウェクスラー博士来日時のコメント

---

- ・手先が器用という理由で機械の部品作成の作業をする受刑者は、規律違反を反復し、受刑生活が低調。
- ・ウェクスラー検査のローデータを見たウェクスラー博士：  
「この作業の課し方は、まったくのミスマッチだ。知能検査は単に認知機能や指数を知るのが目的ではない。施行時のやり取り、応えるときの表情や仕草、どんな雰囲気醸し出されてたか、そしてこの下位検査のバラツキを読み取ることに意味があるのだ。」

(村瀬嘉代子, 2015 アセスメントと仮説 村瀬嘉代子編 心理療家  
の気づきと現象 金剛出版)

## 4-5 ウェクスラー博士来日時のコメント（続）

---

「彼は本来アグレッションを抑え込んでいて、そのことをこれまでだれからも理解されなかったものと考えられる。手先が器用だという理由でそういう作業を課してきたことは、彼の内に不完全燃焼しているものをどんどん蓄積させだろう。受刑者の適性に応じ、そこに教育的・治療的意味を持たせてこそ再犯も防止できるであろう。知能検査を平板なレベルで考えて欲しくない」

（村瀬, 2015）

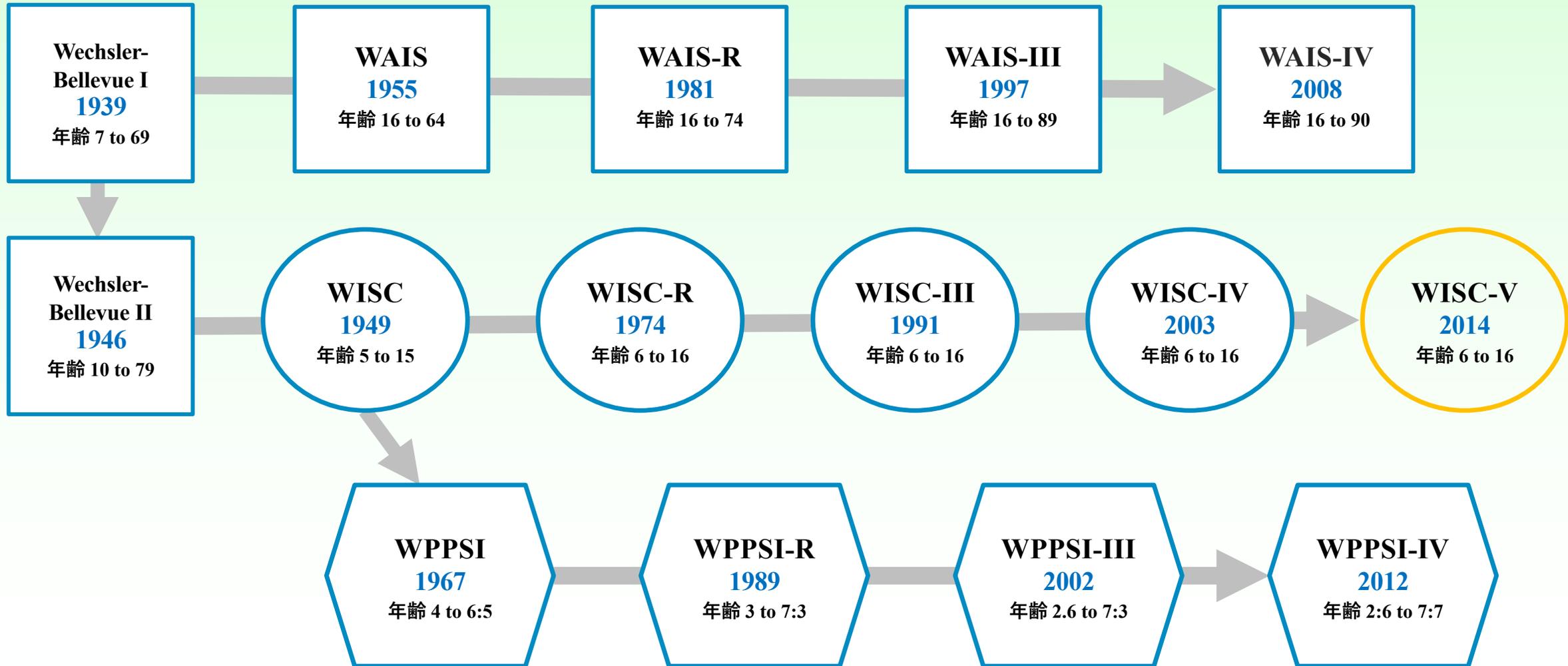
★キャリア支援 強いところ ≠ やりたいこと

例：盲目の水泳選手の悩み

# 原版ウェクスラー検査の歴史

『日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント』p.4より転載加筆

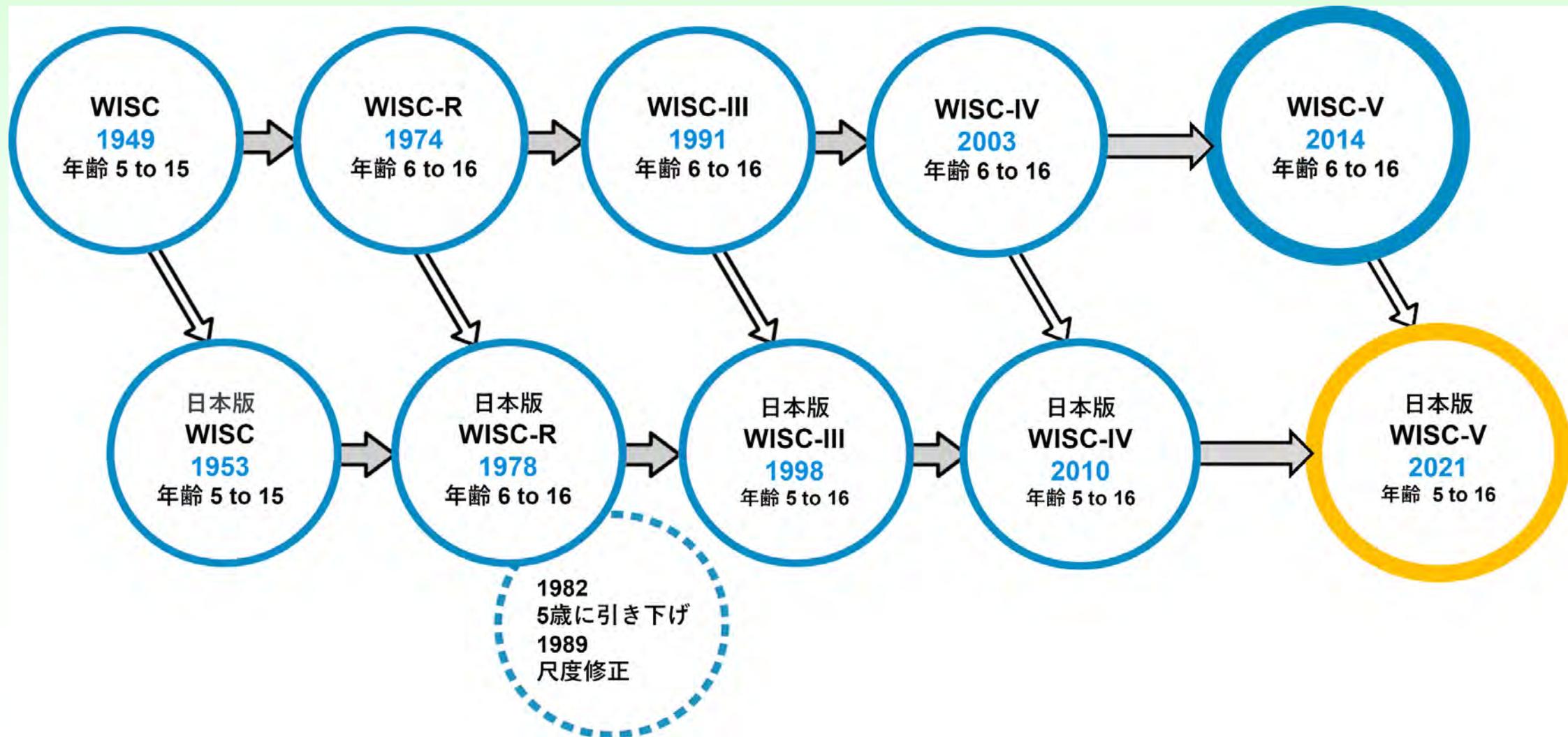
『WISC-V知能検査講習会 講義資料』より  
日本文化科学社の許可を得て転載



# 原版WISCと日本版WISC

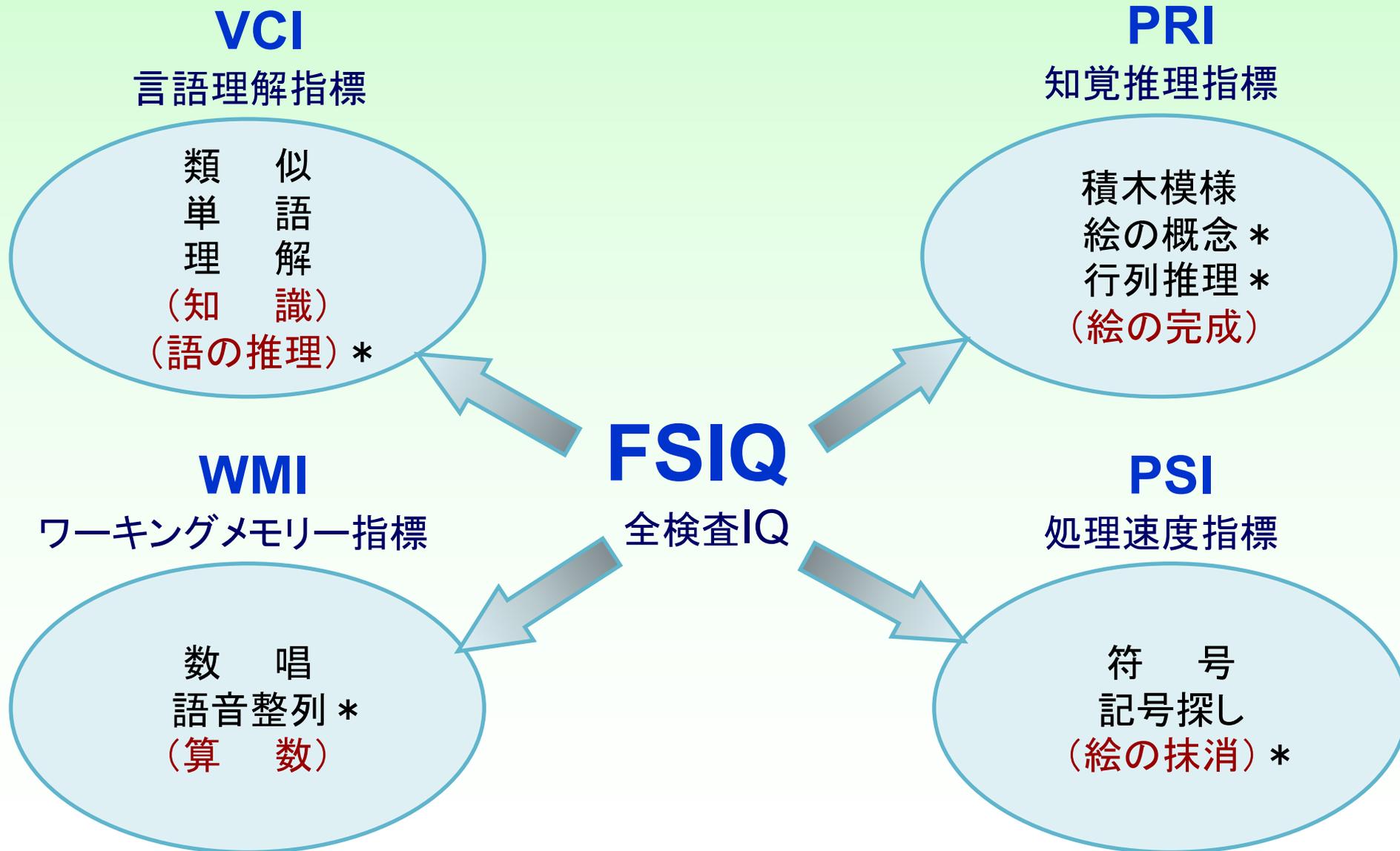
『日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント』p.14より転載加筆

『WISC-V知能検査講習会 講義資料』より  
日本文化科学社の許可を得て転載

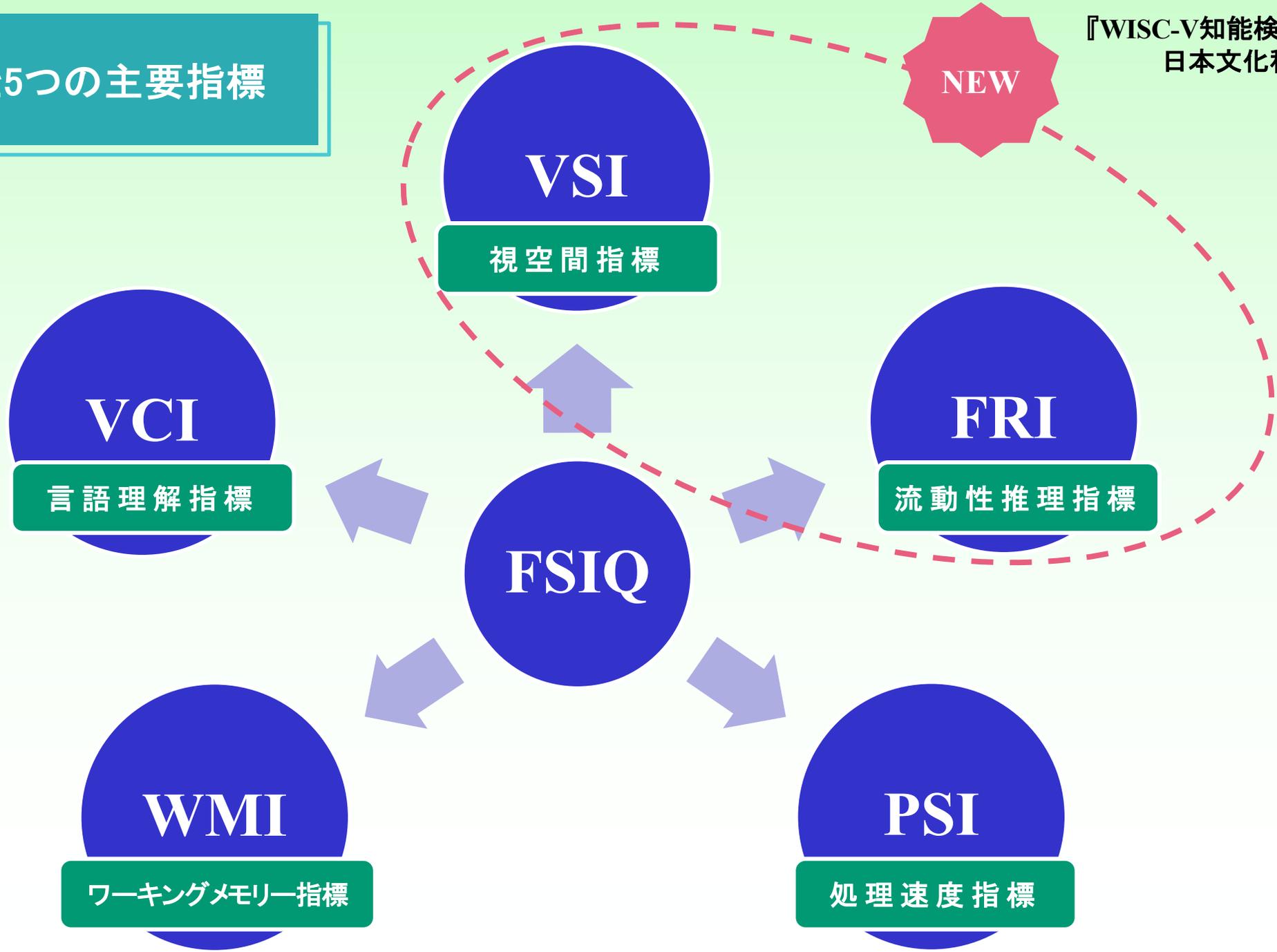


# WISC-IVの枠組み

『WISC-IV知能検査講習会 講義資料』より  
日本文化科学社の許可を得て転載



# FSIQと5つの主要指標



## 5-1 Alan S. Kaufman (1944-)

- ・ ニューヨークのブルックリン(WBの誕生地) 生まれ  
コロンビア大学ソーンダイクのもとで博士号 (心理測定)  
1968-1974 サイコロジカル・コーパレーション勤務  
1974以降 ジョージア大学、アラバマ大学、イエール大学等  
でスクールサイコロジストの養成、知能検査の研究
- ★Nadeen (スクールサイコロジスト、LDの支援の専門家) と  
協働で認知心理学・神経心理学に基づく検査K-ABCを開発。
- ★知能検査の結果の解釈と活用の研究 “Intelligent  
Testing” (賢いアセスメント) の提唱

## 5-2 ウェクスラーとカウフマンの出会い

- ・ 1960代 LDへの関心が高まり：プロフィールによる特性の理解
- ・ 1970代 カウフマンはサイコロジカル・コーパレーション勤務  
ウェクスラー70代半ば カウフマン20代

WISC-R (1974) の標準化をウェクスラーとカウフマン2人で！

- ・ ウェクスラーは熱意のある臨床家：ノートも新しい項目、漫画の挿絵

“Dr. Wechsler” “David” と呼んだことはない(私はAlanと呼ぶ)

### ● ウェクスラーからカウフマンへの継承

- ① 支援につながる臨床検査の開発と活用
- ② 多面的な知能の理解

## 5-3 K-ABCの誕生

1983 K - A B C (Kaufman Assessment Battery for Children )

認知処理過程尺度：継次処理尺度・同時処理尺度

習得度尺度

★なぜウェクスラーの検査に挑戦する新しい検査を作ったのか

①ウェクスラー式では、人種・言語のマイノリティ、LD児が過小評価される→知能と習得度を分ける。検査項目の教示問題、教習問題の導入 ②理論に基づいて検査を作る→継次処理・同時処理 ウェクスラーを引き継いだ！

★なぜ出版社が当時30代のカウフマン夫妻に新検査の開発を託したか→才能の評価に年齢は関係ない。社会のニーズ。ビジネス

## 5-4 カウフマン博士

知能検査は、子どもの学力を予想し、

安楽椅子に座ってその予想（例：子どもの失敗）が当たるのを待つために実施するではない。アセスメントで得られた情報（例：得意な認知スタイル、望ましい学習環境）を子どもの援助に活かすことで、**検査の予想を翻す（Kill the prediction!）**ためにある！

★心理教育的援助サービスは子どもの発達を援助する。

## 5-5 カウフマン式検査

1983 K-A B C

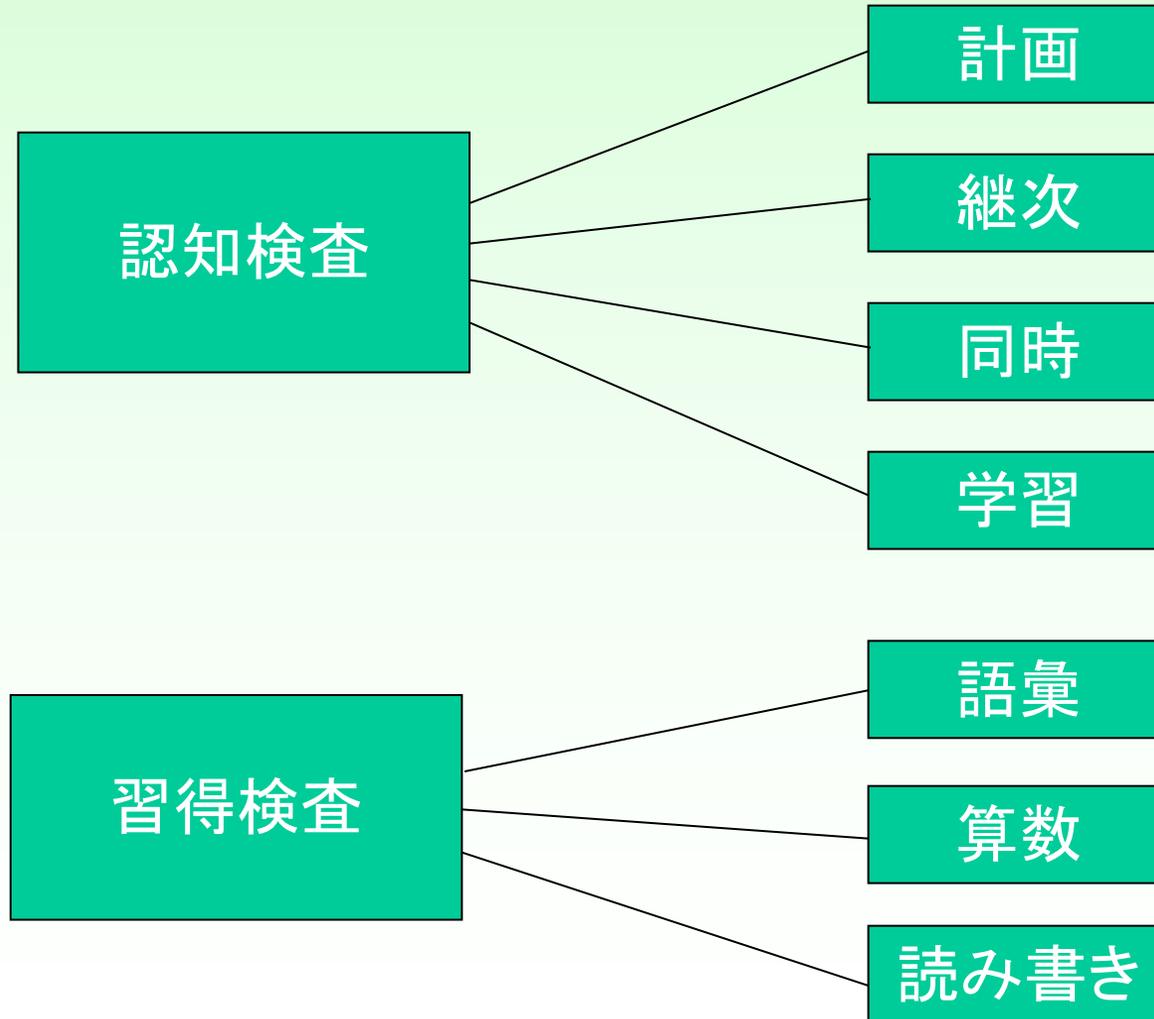
1993 K-ABC心理教育アセスメントバッテリー

2004 KABC-II

2013 日本版KABC-II

★新しい知能の理論：CHC理論

# 5-6 KABC-IIの構成



# 5-7 キャットテル-ホーン-キャロル (CHC) 理論 (10の広域能力から構成される新しい知能理論)

## CHC理論の2つの起源

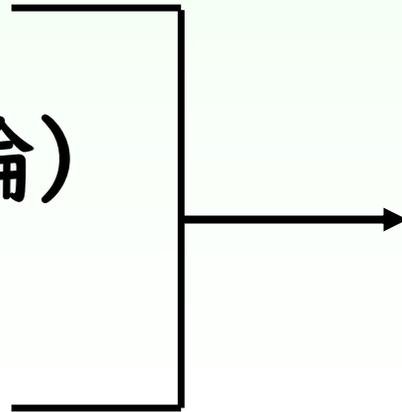
1. Gf - Gc理論

(Cattell・Horn理論)

2. Carroll理論

1990年代後半

CHC理論に統合



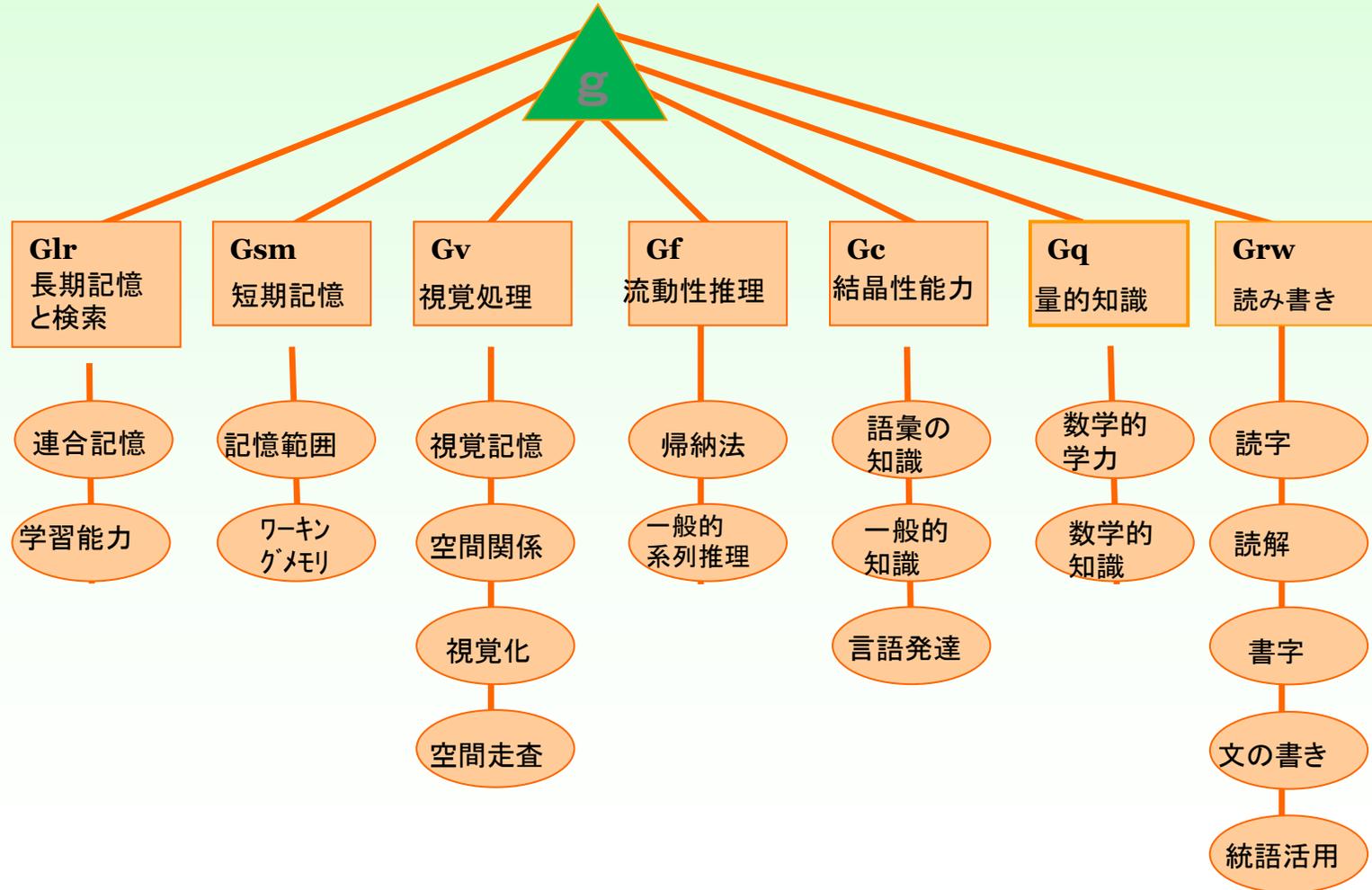
# 日本版KABC-IIに適用された Cattell-Horn-Carroll(CHC)理論

第Ⅲ階層: 一般能力

KABC-IIではCHC総合尺度により測られる

第Ⅱ階層: 広範的能力

第Ⅰ階層: 限定的能力



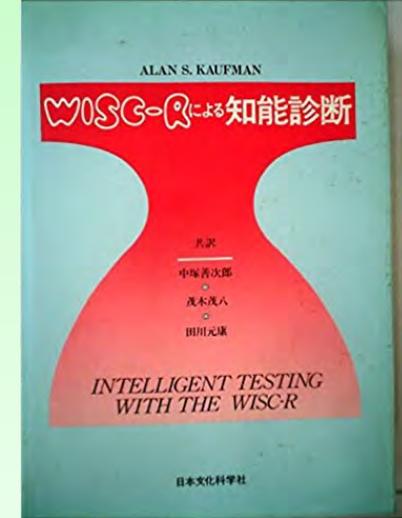
KABC-IIアドバンスト講習会テキストより

CHCモデル	KABC-II	WISC-V	WAIS-IV
流動性推理	○	○	○
結晶性能力	○	○	○
視覚処理	○	○	○
短期記憶	○	○	○
長期貯蔵と検索	○	○	×
量的知識	○	×	×
読み書き	○	×	×
処理速度	×	○	○
聴覚処理	×	×	×
Decision/Reaction Times/Speed	×	×	×

# 6-1 カウフマン先生との出会い

☆カウフマン先生に会いたい

Where are Drs. Kaufman?



モンテバロー大学の先生の紹介で、

1985年アラバマ大学に41歳カウフマン先生訪問

35歳の私を一人のサイコロジストとして尊重！

「言語・文化の負荷が低いK-A-B-Cの日本語版を開発したい」  
→ 「それはよい考えだ！」（日本文化科学社1983年の翻訳を通して日本人の仕事への信頼、日本食大好き）

## 6-2 カウフマン夫妻との出会い

・ 1985秋学期

アラバマ大学大学院入学

カウフマン夫妻のTT授業：

知能検査の修行

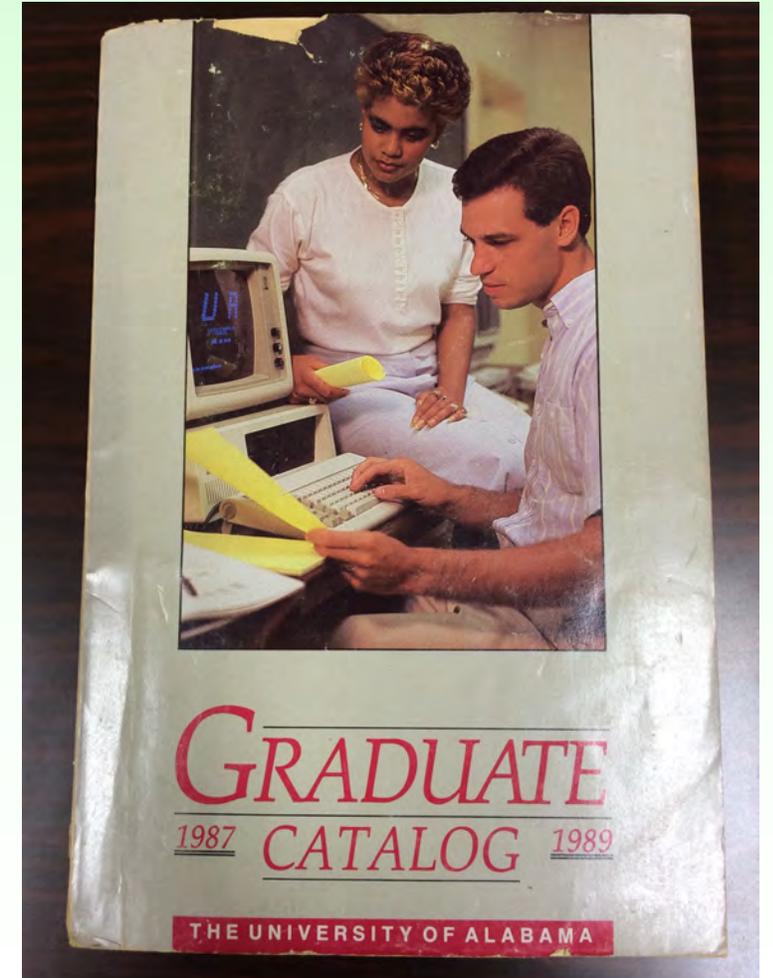
“Individual Intelligence

Testing and

Case Report Writing”

(By Alan/Nadeen)

最初は20数名、最後は↓ 1988 AlanのTA



## 6-3 カウフマン夫妻の教え (1)

①Alan とのロールプレイ：信頼関係、文化的多様性

野球帽、ローリーキャップキャンディ

★検査におけるラポール（作業への信頼、心理職への信頼）  
共同作業

②検査中に子どもが急に妹のことを話し始めたら検査をやめる？

：プロフェッショナルリズム

だれのため、何のための援助か

★援助ニーズに応える

## 6-3 カウフマン夫妻の教え (2)

③Nadeen のcheck out→WISC-R 10件 K-ABC 10件

検査実施のスキルの確認：心理的アセスメントの技術  
子どもの「最高の」能力 (best performance) を測る

④Alanによるケースレポートの真っ赤な添削

測定 (統計) データ・専門的知識・臨床的な勘に基づく

検査結果の解釈：科学的方法と反省的实践

コンサルテーション・チーム援助 (会議) のツール

当事者・援助仲間への配慮、 (多忙な人) 論理的な文章

タイトル：1991 “Amazingly short forms of the WAIS-R”

## 6-4 Kaufmanの賢いアセスメント

Intelligence tests → **intelligent testing**へ

- ① 要支援者の援助：「とりあえず検査」ではなく「もっとよい援助」のために ★検査結果の活用（アセスメントレポート）
- ② 臨床的な情報（援助者の経験からくる勘）と数理統計的な情報（検査結果）との統合 ★ウェクスラー、カウフマン夫妻
- ④ 子どもと環境の相互作用：生態学的アプローチ  
★サンディエゴの小学校、大学での経験
- ⑤ アセスメントの結果は最新の研究成果（エビデンス）に基づいて解釈される

石隈（1999）

## 6-5 賢いアセスメントからフィードバック（石隈）

- ・心理検査の報告には事実、推論、今後への提案が含まれている

事実：標準化された知能検査の結果：子どもへの事実の共有

推論：知能検査の結果、背景情報、行動観察等を統合した結果としての、子どもの知的発達レベルや特性：子どものもつ客観的・主観的事実とのすりあわせ・推論の修正

提案：援助案、行動計画：子どもの主観的事実（願い）の尊重

# まとめ：受け継いだもの

ビネー、ウェクスラー、カウフマンに共通する考え

援助のための心理検査（道具、行為、共同作業）

ウェクスラーからカウフマンに引き継がれたもの

支援につながる臨床検査の開発と活用そして多面的な知能の理解  
（でこぼこ・プロフィール）への情熱

さらにカウフマンから

- ・ 公平な検査（ダイバーシティ時代の心理検査）
- ・ 検査を支える知能理論を学び続ける（科学）
- ・ 賢いアセスメント（人）：結果の解釈から援助の実践

# 最後に：さらなる発展

- ・ K-ABC, KABC-II, WISC-III, WISC-IV, WISC-V, WAIS-IVの日本版開発に関わる\*Alanに電話で許可「世界一のテストの開発は、名誉」

- ・ 「賢いアセスメント」の哲学を心理教育的援助サービス（学校心理学）に生かす

  - ★知能検査の意義と限界

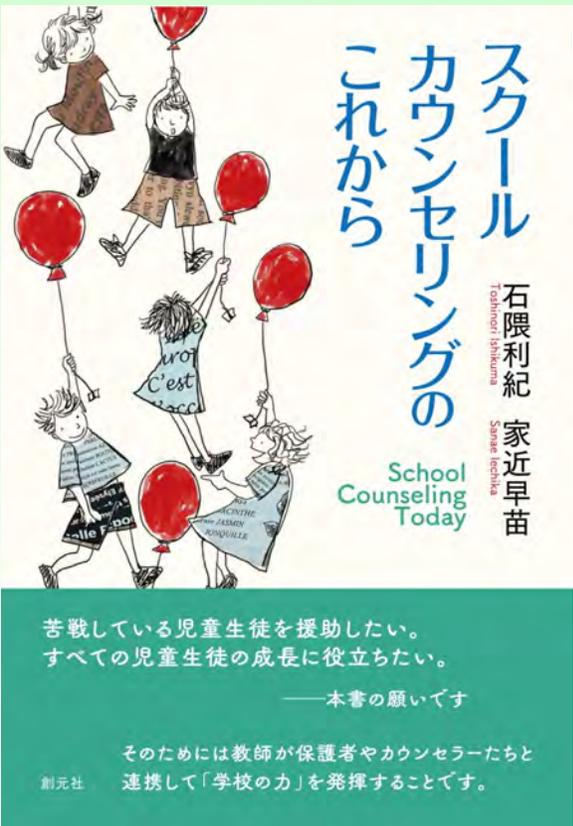
  - ★RTI（3段階の心理教育的援助サービスモデル）の活用

  - ★面接（面談）、観察、文書によるアセスメントの重要性

  - ★チームアセスメント→子どもとのパートナーシップ

# 主な参考文献

- 石隈利紀 (1999) 学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス 誠信書房
- 石隈利紀 (2021)カウフマン先生と私～賢いアセスメントからの学び K-A B C アセスメント研究23, 1-15.
- 石隈利紀・家近早苗(2021)スクールカウンセリングのこれから
- 染木史緒・上野一彦 (監訳) (2023) エッセンシャルズ：心理アセスメント レポートの書き方第2版 日本文化科学社
- Kaufman, J. C. (Ed) (2009) A tribute to Alan S. Kaufman, Intelligent testing: Integrating psychological theory and clinical practice. Cambridge University Press.
- Kaufman, A. S. (2018) Many pathways, one destination: IQ tests, intelligent testing, and continual push for more equitable. In Robert J., Sternberg, The nature of human intelligence. Cambridge University Press.
- Kaufman, A. S., Raiford, S. E., & Coalson, D. L. (2016) Intelligent Testing with the WISC-V. Wiley
- ★日本文化科学者HP：心理検査を知る 「心理検査の倫理と使用者の責任」



# 『スクールカウンセリング』を学ぶ1冊！

1. スクールカウンセリングとは
2. 学校教育の現場を生かして
3. 子どもの援助ニーズに応じて（重層的支援）
4. 援助するスキルを磨いて
5. 子どもの苦戦に応じて（いじめ、不登校、発達障害など）
6. チーム学校で

当事者である子どもとのパートナーシップで、  
子どもの成長を援助する。

教師・スクールカウンセラー・保護者らの  
チーム援助。